

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔カメラ〕 （店長）	・これまで以上に旅行など観光に出掛ける人は増える。また、退職者には趣味で写真撮影をする人が増えているが、デジタルカメラの普及で写真のショット数が増えている。		
		百貨店（企画担当）	・ボーナス支給額の増加や有効求人倍率の回復など、個人消費が伸びることが期待される。		
		百貨店（営業担当）	・天候要因に引っ張られる割合が大きいいため、今夏は暑いという長期予報のとおりだとすれば、期待できる。また、ギフト需要は底堅く、中元商戦にも期待している。		
		コンビニ（経営者）	・近隣で2店舗運営しており、競合する部分はあるものの、それぞれ特徴のある店作りをすればすみ分けができてくる。		
		衣料品専門店（店長）	・比較のお値打ちに買物をしたいという20代、30代の客層の目が当店に向き始めていることから、来客数が増える傾向にある。		
		衣料品専門店（店長）	・買上客数の増加とともに1人当たりの買上点数も増えており、梅雨明けが例年より早いという長期予報も出ていることから、売上増加に結びつく条件がそろっている。		
		家電量販店（店長）	・長期予報で夏の暑さが予想されていることから、エアコンを中心に動きが良くなる。それに伴い黒物と呼ばれるAV商品の動きも良くなり、総体的に売上が上向く。		
		家電量販店（店長）	・これまでは来客数の減少と単価の低下が続いていたが、来客数の減少に歯止めが掛かり、単価はむしろ上昇の気配がみられる。		
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が出ることもあり、市場は活性化しつつある。既存客からも問い合わせがあり先行きは明るい。競合が多い車種なので他のメーカーも盛り上がる。		
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・中心街区はハード、ソフトの計画が進み、パッセージ広場連携構想が7月に完成することで、夏場以降は大きな集客が見込める。		
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・観光シーズンに入り観光客が前年に比べて多くなり、若者の動きも活発になっているため、全体的に良くなっていく。		
		一般レストラン（経営者）	・天候によって街への人出が左右されることはあるが、当店の場合は予約の状況も良く、予約無しの来客数も安定してきている。		
		一般レストラン（スタッフ）	・上場企業の決算状況も良く、ボーナスの支給も前年より増えることから、当面の景気は良くなる。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・就職状況の改善に伴い、料飲部門、婚礼部門へも好影響が波及する。		
		通信会社（営業担当）	・来客数、受注量が徐々に増えている。新機種のリリースもあることから景気は良くなる。		
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・人口構造の変化が商店での売れ方を大きく変えた。大型店進出や通販、ネット購入の増加など、購買形態が多様化しており、中心商店街として売上を伸ばすことは難しく、深刻な状況が続く。
				商店街（代表者）	・周辺の商圈整備が進んでおり、商店街としては町作りを含む全体的な施策の充実が急務となっている。
				商店街（代表者）	・業況を大きく改善できる要素が見いだせず、当面は売上高で前年実績を下回る状況が続く。
				一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・オリンピック予選やJリーグの試合など、様々なスポーツイベントがあるにもかかわらず、今一つ盛り上がり欠けている。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・例年7、8月は来客数が増える時期であるが、当店の繁華街では電線の地中化工事が着手され、一方通行にもなるため、歩行者が減ることを心配している。				
一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・輸出の伸びが景気をけん引するということは考えられなくてもないが、国内に限っては、消費を喚起する政策も無ければ賃金の上昇も無いため、一進一退で推移する。				
百貨店（総務担当）	・年金問題など社会不安が続くなかで、景気は現状のまま推移する。				
百貨店（経営者）	・消費者の所得が増えるような話題は無く、逆にガソリンや食料品などの価格上昇などマイナス面の材料が多い。				

百貨店（経営者）	・今月はトレンドが上昇するような動きもみられ、また、暑い夏になるとの予報もあり季節商材の動きには期待が持てる面もあるが、個人の可処分所得が増える状況ではなく、購買金額も増えないため、長期的には変わらない。
百貨店（売場担当）	・同じ地区内に大型量販店やファッションビルができたため、少なからず影響がある。選ぶ側の客は色々な選択肢が増えてきているが、売る側の厳しい状況はすぐには変わらない。
スーパー（経営者）	・石油価格やバイオ燃料の関係から、一部の特殊な分野に価格上昇の動きはあるものの、食料品全体からすれば大きな影響は無い。生鮮品相場に多少の変化があったとしても、客の消費動向は安定した状態が続いており、大きな変化は無い。
スーパー（店長）	・チラシ価格を強化すれば、ある程度の売上回復は可能であるが、粗利益率低下により経常利益の確保が厳しくなってくる。当社が価格強化策を打てば、競合店も追随してくるため、今後ますます価格競争による客の奪い合いになっていく。
スーパー（店長）	・原材料や燃料の価格上昇により各メーカーの卸値が上昇しているにもかかわらず、競合店の目玉商品は据置きとなっているため売価に反映できない。今後も景気が良くなる材料は見当たらない。
スーパー（店長）	・競合店間の売上、来客数のバランスがきつ抗しており、現状から大きな変化は期待できない。
スーパー（店長）	・当地は一次産業を経済の中心としており、米、野菜などの作柄によっても景気は変わるが、最近では中国産のしいたけやねぎなどが入り、悪い意味で地域経済への刺激となっている。
スーパー（店長）	・競合店進出の影響が落ち着いてきたことから、今後も現状と変わらずに推移する。
スーパー（総務担当）	・原油の高騰に伴うバイオ燃料への切替え需要が、油脂系食品の高騰という形ではっきり表れてきた。今後は畜産品にも値上げの動きがある。税源移譲で増額になる住民税の給与控除が6月から始まり、可処分所得が現在より若干減ることもあり、決してよい消費環境にはない。一方で、雇用情勢と製造業等の景況からは時間外労働所得の増加も見込めるが、消費拡大につながるほどではない。
スーパー（企画担当）	・現状は寒暖の差が激しく、明確な売れ筋が見付からない。また、新規競合店の影響が続く。
コンビニ（経営者）	・基調はマイナスが続く。東西南北200m四方を完全に競合店に囲まれてしまったため、立ち直りには時間が掛かる。
コンビニ（エリア担当）	・主力商品である弁当、おにぎり、サンドイッチなどの売上が前年比90%程度で推移しており、回復の兆しが無い。
コンビニ（店長）	・原油価格も上がってきているし、選挙もあるため夜の繁華街は静かになる。とにかく明るい話題が無く、当社全体の数字をみても宮城県内は落ち込みが激しい。
衣料品専門店（総務担当）	・客単価、買上点数共に伸びていない状況が続いているため、景気はそんなに変わらない。
乗用車販売店（経営者）	・6月以降も各メーカーからのニューモデル攻勢があり、若干の新型車投入効果は見込めるものの、県内の自動車需要がプラスに転じるかは不透明である。
乗用車販売店（経営者）	・車両販売は小型車、軽自動車を中心であること、また、車検などの整備部門は競合により単価が低下していることから、いずれにしても多くの台数を確保しなければ予算の達成はできないが、市場規模の小さい地方都市では厳しい状況が続く。
住関連専門店（経営者）	・客をみる限り、懐に余裕がある様子は無く、業界の厳しさは今後も続く。
住関連専門店（経営者）	・主な客層は熟年から高齢者であるが、消費意欲が落ち込んだままであり、立ち直るのはまだ先のことである。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・お盆の帰省シーズンであり地元の飲食店にはぎわうこともあるが、贈答用は低調な販売状況が予想されるため、全体的には変わらずに推移する。
一般レストラン（経営者）	・個人客の予約状況があまり多くないことから、これまでと似たような状況が続く。
スナック（経営者）	・ゴールデンウィーク後から客足が極端に悪くなっているが、2、3か月先についてもよほどのことが無い限り売上はあまり変わらない。
その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・人口も減少傾向であり、2、3か月後も売上は伸びない。

	観光型ホテル（経営者）	・団体客が増え始め、入込は前年並みに戻ってきた。客層は自動車、病院、金融関係の職種が目立つ。当館は大浴場の増設と客室のリニューアルが完成したため、今後の客の動向に興味を持っている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・基調はやや弱い、国体開催に向けた動きが具体化、活発化してきており、その部分ではプラス要素もある。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・国際的なサーカスの興業や博物館での特別展など、市内には集客を見込めるイベントがあるものの、参議院選挙が控えており飲食関係では苦戦する。原油高や自動車販売の不振など、暗い話題も増えている。ホテル業界は競争が激しく、客からの値下げ要請も厳しくなっている。	
	タクシー運転手	・乗客からは景気が良くなっているとの話が増えているが、タクシー業界は少ない客を取り合う状況が続くため、景気回復から取り残される。新しいドライバーが入って来なくなり、いつ寝ているかも分からないようなドライバーが増えていることが気掛かりである。	
	タクシー運転手	・周囲の業種については景気が回復しているような様子もあるが、タクシー業界の場合は車両の増加が激しく構造不況の状態であるうえに、更にもう1社増えるとのうわさもある。	
	遊園地（経営者）	・夏期はイベントなどで前年度並みの入場者数確保を目指す、ジェットコースター事故による風評の影響は懸念材料として残る。	
	美容室（経営者）	・業界全体で現在の底の状態が半年程度続いており、この状態は1年程度続く。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・東北全体の企業業績が悪く、個人消費の動向も低迷しているままなので、しばらくは悪い状態となる。	
	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・自社分も含め、今年は地元商圏で売場面積が約1,000坪増加しているため、坪当たりの売上は落ち込みが顕著である。	
	スーパー（経営者）	・競合の状況が以前よりも厳しくなっており、来客数の減少や価格競争による客単価の低下傾向はしばらく続く。例年より気温が若干低い日が多いが、今後の気象動向にも注目している。	
	スーパー（経営者）	・とうもろこし等、原材料価格の上昇が商品価格へ本格的に波及してくる。	
	乗用車販売店（経営者）	・来客数の減少傾向が続いており、若者の車離れ、ファミリー層、シルバー層の買い控えにより、当面は需要回復の兆しが無い。	
	自動車備品販売店（経営者）	・燃料費の値上げが一段と進み、個人、及び運輸関連を中心とした事業所は、一層の経費節減を進める。	
	住関連専門店（経営者）	・来客数が少しずつ減っている。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・地方の景気はまだ回復しているとはいえないため、ガソリン価格の上昇により客の買い控えが多くなる。	
	一般レストラン（経営者）	・客の間でも格差が広がっている様子があり、この傾向が加速すると全体的には良くない。	
	観光型旅館（経営者）	・観光業界では、選挙の前後は客足が悪くなる傾向が強い。参議院選挙を控え、悪くなる要因はあるが、上向きになる理由が見当たらない。	
	旅行代理店（従業員）	・今月の売上が非常に良く、その反動もあって販売量は減少する。	
	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・公共発注においては、案件数の減少、単価の低下、発注時期の遅れがある。また、石油製品を中心とした原材料価格の上昇傾向や、金利の上昇傾向、来客数の減少や購買行動の停滞など、消費停滞の傾向が強くなってきている。	
	悪くなる	スーパー（店長）	・6月下旬には、1km先の1次商圏内に当店と同規模の競合店が出店するため、競合が激化する。
スーパー（店長）		・競合が激化していることに加え、原油価格の高騰に伴い紙製品やマヨネーズの値上げが予定されている。値上げ前の特需はあっても、その後は買い控ええられる。	
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	土石製品製造販売（従業員） 広告代理店（従業員）	・今年度の工事発注予定が増えてきていることや、取引先の状況からも景気は上向きで、明るさが見受けられる。 ・受注価格の下落は継続中であるが、物件数は増加傾向にある。
	変わらない	農林水産業（従業者） 食料品製造業（経営者）	・産地づくり交付金が年々減らされている。 ・当面、アメリカからの牛タン原料の輸入が増える状況になく、現在の状況が変わらない。

		食料品製造業（総務担当）	・今年の夏は暑さが厳しいとの予測もあり、例年以上に夏場の売行きは厳しい。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車部品に関しては、国内での自動車販売の伸び悩みが気になるものの、輸出向けは堅調に推移する。一方、携帯電話向けの部品は低迷状態が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在ある案件については、相手先の指値で受注せざるを得ず、9月ごろまでの上半期中の改善は見込めない。そのため、方向転換を図り、新規分野への営業展開を積極的に進めることとした。
		建設業（経営者）	・お盆に向けてリフォーム工事の引き合いがあるが、競合の動向や物価の上昇からすれば、工事量はそれほど増えない。
		輸送業（従業員）	・いつもの出荷量しか見込めない。今一つ伸び悩み傾向である。
		通信業（営業担当）	・低価格で追加の設備投資を行わなくてはならない状況が依然として続いており、投資対効果の点で事業展開の先行きには厳しいものがある。
		広告代理店（営業担当）	・大方の得意先には、広告出稿に前向きな様子が見られない。
		司法書士	・不動産取引の減少傾向に歯止めが掛からない。
	やや悪くなる	電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体メモリの市場価格が低迷しており、内部コストダウンにて業績悪化を圧縮すべく努力しているものの、大変厳しい状況と認識している。
		輸送業（経営者）	・軽油価格は、4月までは比較的安定していたが、5月になり原油高に伴い上昇してきたため、運送業にとっては燃料費の上昇に直結する。
		広告業協会（役員）	・ボーナスを見込んだ販促キャンペーンもいまだに動きが無く、先行きは厳しい状態である。
		コピーサービス業（経営者）	・夏休みをとる取引先も多く荷動きも少なくなる時期でもあるため、このままの状態が続けば例年より苦戦する。また、市内ではビル建設も進んでいるが、地元の業者は相手にされていない。
	悪くなる	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・取引先である小売店の衰退が進んでおり、納豆や豆腐を買いに行くにも車で出掛けなければならないなど、消費者は不便さを感じている。同業者との話でも前年比2割ダウンというのが当たり前になってきており、前年並みにするには大変な苦労が必要な状況である。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・大型コールセンターの立ち上げや官公庁の入札案件があり、また、紹介予定派遣が堅調なことから、やや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・多数の派遣先で残業がみられ、5月になっても減っていない。多忙により増員、という案件もみられる。
		人材派遣会社（社員）	・3月決算企業の業績は堅調で求人が多く出てきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・既に進出計画を持っている流通業、ホテルなどからの求人数が増加する。ただし、それに呼応した地元企業の動きがみられるまでには、もう少し時間が掛かる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少傾向が長期間続いており、まだ変わっていない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・最近4か月連続で求人が減少しており、雇用状況の改善が期待できない。
		職業安定所（職員）	・これまで新規求人数を底上げしてきた派遣求人の申込は、件数は変わらないものの1件当たりの求人数が激減しており、しばらくはこの傾向が続く。
悪くなる	-	-	